

数理同窓会報

No.7 (2012年8月1日)

九州大学大学院数理学府同窓会

<http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>



大学施設の変遷



皆様方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

私の住居は福岡市の東の境界近くにあり、九州大学数理学研究院は伊都キャンパス、福岡市の西端にあります。気軽に九大数理を訪ねるには遠すぎる距離があります。退職して時間が経過するにつれて最近の九大数理の状況に益々疎くなっております。最近の九大数理の状況について伝えることができないことをお許してください。

さて私が九州大学に入学したのは1963年（昭和38年）で、当時教養部は図書館と教室の一部がまだ木造でした。私は教養部時代、たまには下駄で登校し、木造の廊下をカランコロンと自慢げに音を立てて闊歩したのを憶えております。箱崎理学部に進学しても、理学部3号館がある場所には、まだ木造平屋の教室が幾つかあり、そこで講義を受講しておりました。

昨年、東京大学数理科学研究科の玉原（たんばら）セミナーハウスで開催された研究集会に参加する機会がありました。ここを訪れたことのある方には説明不要ですが、群馬県玉原高原にあるこのセミナーハウスは、ブナの原生林と湿原に囲まれた標高1200mの高原に位置し、カラマツの大木の丸太を組み合わせて作られた巨大なログハウスです。九重研修所とはまったく違った雰囲気があります。

やはり昨年、京都大学での研究集会に参加した時には、一部の講演が京大理学部敷地に最近建てられた理学研究科セミナーハウスで行われました。このセミナーハウスは木造平屋で、床、壁、天井がすべて美しい木目を持つ木材で作られていて、なかなか落ち着いた雰囲気を醸し出しておりました。

2012年2月9日の新聞報道では、九大伊都キャンパスに木造の外国人研究者用宿舎の建設が進められているそうです。福岡県産木材を主に、すべて国産材を使用した3階建て、家族室、单身室、計33室を備え、今年度3月に完成予定だそうです。この次、私が伊都キャンパスを訪れる頃には完成していると思うと、どのような外国人宿舎が建っているか、今から楽しみにしております。木造建築物の持つ良さ、落ち着いた雰囲気がまた見直されているようです。皆様も機会があれば是非、数理学研究院棟とともに、新しい伊都キャンパスの木造外国人宿舎を訪ねてみてください。

平成24年7月

数理学府同窓会会長
九州大学名誉教授 風間英明

これまでの100年とこれからの100年を繋ぐ「新亭々舎プロジェクト」

九大OB相談のる研 冬野裕二

この度は「新亭々舎プロジェクト」についてのご紹介をさせて頂く機会を頂きまして誠にありがとうございます。

九州大学は2011年(平成23年)に創立100年を迎え、2019年(平成31年)を目途に伊都キャンパスへの移転という大事業に取りかかっています。その華やかな大事業の陰で、かつての学び舎は静かにその役割を終えようとしています。九州大学に入学したすべての学生が大学生活の最初の一步を踏み出した六本キャンパスも2011年9月に解体されました。



六本松キャンパスにあった亭々舎

六本松キャンパスにはその時々を過ごした九大OB・OGが積み上げた何ものにも変えられない大切な思い出が存在していたように思います。

亭々舎は六本松キャンパスにあった学生集会所です。おそらく皆さまの中にもクラスや部活・サークル等の新歓コンパや新年会等で楽しく、ま

た苦い思い出を持たれている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

2009年夏、九州大学の卒業生である有志が協力し、六本松キャンパス内で最も思い出深い施設のひとつである亭々舎の雰囲気や役割を継承しながらも伊都キャンパスにふさわしい新たなコミュニティスペースを九大OB・OGや関係者の寄附でつくる計画が立ち上がりました。それが「新亭々舎プロジェクト」です。



亭々舎での新年会(1966年)



亭々舎での新歓コンパ(2007年)

新亭々舎プロジェクトでは、現役九大生や九大OB・OG、地域の人々が集える“九大のこれまでの100年とこれからの未来を結びつける”という大きな目標を持って取り組んでおります。

東日本大震災により、募金活動の自粛しておりましたが、この度、九州大学基金の支援助成事業として、九大基金へと組み込まれることとなり改めて実現へ向けての一步を踏み出すことに致しました。(九大基金へと組み込まれることにより所得税・法人税の控除を受けることができます。※控除を受けるためには所定の振込用紙での振込が必要となります。詳細は下記のHP、またはメールにてお問合せください。)

【HP】: <http://kuaclab.org/project/>

【メールアドレス】: info@kuaclab.org



九州大学建築学科OB阪根宏彦氏イメージスケッチ

久留米駐屯地の数学教室記念碑の移設

庶務幹事 川崎英文

九州大学に理学部が設置されたのは昭和14年4月のことです。戦時下空襲の激化に伴い数学教室は昭和20年4月に浮羽工業高校へ疎開し、昭和22年11月に物理教室の一部と合わせて久留米市の元陸軍48連隊跡に移り、昭和26年10月に福岡に完全復帰するまで「理学部久留米支部」とよばれていました。

当時の大学生活は富田稔先生の「兵営跡の我が学生時代」に生き生きと描かれていて、その中の「ある白い犬へのレクイエム」の話を覚えておられる方も少なくないのではないのでしょうか。

実は、当時を記念して1993年2月に記念碑が久留米駐屯地に建立されていました。当時の理学部長岡崎篤先生によると「桜の季節にとりおこなわれた除幕式には、岡崎学部長と白谷克己数学教室主任が招待され、東京からの大槻富之助先生ご夫妻、大和田広元、疋田孝彦、村上正康、石井勲、河野和正、富田稔の諸先輩、北川敏男先生のお嬢様お二人ほか多数が参加されました。」

月日は流れ、2010年10月に突然、九大財務部を通して、自衛隊九州防衛施設局から記念碑設置に関する問い合わせが同窓会に舞い込みました。「記念碑の表側には『九州帝国大学 理学部 数学教室 学舎跡』、裏側には『福原満洲雄 筆 1993年2月建立 関係卒業生一同』と刻まれています。当該設置敷の借入手続きがなされていないものです。久留米市の道路拡幅工事に伴い当該記念碑の撤去を求められています。どなたが設置されたのでしょうか？設置の情報が分かりましたら、ご連絡いただきますようお願いいたします」と。

ところが、退職された先生方も記念碑の存在すらご存知ではありませんでした。そんな時、理学部同窓会特別事業でお会いした岡崎先生のことを思い出し、ひょっとしたらご存知かも知れないと思いメールを差し上げたところ、富田先生が中心になって建立されたものと判明しました。

しかし、ひとつ問題がありました。設置敷の借入手続きが十分ではなかったようで、撤去費用を

負担するよう求められたことです。そこで、岡崎篤先生と吉川敦先生(現 久留米附設高校校長)に相談したところ、両先生には11月に自衛隊久留米駐屯地を訪問し池松広報資料館長に面会するという労をとって頂き、有川節夫総長に一刻も早く伝えるべきとの助言を頂戴しました。そこで、金子昌信数理学研究院長に、11月のホームカミングデーにおいて総長に記念碑の話を伝えてもらい、総長から文書館の折田悦郎教授に頼むようにとの指示を得た事により話が好転しました。

2011年11月、記念碑はめでたくに久留米駐屯地内正門そばへの移設が完了しました。経費は久留米市に負担して頂きました。



写真は11月10日に資産活用課の方が現地確認の際に撮影されたものです。左下の写真の小さい方が数学教室の記念碑で、大きい方が第三分校の記念碑です。岡崎先生によれば、移設前より良い場所とのことでした。

最後になりましたが、終始ご支援を賜りました岡崎、吉川両先生を始め、有川総長、折田教授、比文の前山事務長、財務部の江頭課長、北島係長、金子研究院長ほか関係者の皆様のご理解とご尽力に厚く御礼申し上げます。

(1978年修士入学)

「実験・発見・数学体験」という題の本のこと

九州大学名誉教授 小池 正夫

昨年の9月に、「実験・発見・数学体験」という題の本を数学書房から出版しました。この本の生まれた経緯から話します。10年程前から、高校に

出前授業に行く機会が増えました。合わせてオープン・キャンパスも盛んになり、直接高校生に数学の話しをする場面が多くなりました。そのときに心がけていたのが次のことでした。

- (1) 生徒がよく知っていることから話を始める。
- (2) 授業の途中で、生徒が手を動かして計算できる材料を用意する。
- (3) 生徒がよく知っていることのすぐそばに、今までは知らなかった面白いものがある、ことが体験できる。

この中でも、手を動かして計算をしてもらう、という条件は必要だと思います。聞くだけでは、聞いた内容を自分がわかっているかどうかを知ることはできません。この条件を満たす材料を見つけることは簡単ではありません。苦労して集めた材料で冊子をつくるまでになりました。この冊子の中身を数学Ⅲという科目で学生の授業に使う機会が与えられました。この授業では「実験数学」を体験してもらっていました。実験数学は聞きなれない言葉ですが、それは次の5つのステップからなっています。

- (1) データを集める。
- (2) 規則性を探す。
- (3) 見つけた規則性を数学の言葉で表現する。
- (4) さらにデータを集めて、見つけた規則性を検証して予想を立てる。
- (5) 予想を証明する。

1つの例で説明しましょう。 $x^2 - 1 = (x - 1)(x + 1)$, $x^3 - 1 = (x - 1)(x^2 + x + 1)$ という因数分解は数学Ⅰで教えます。しかし、この先の $x^4 - 1$, $x^5 - 1$, $x^6 - 1$, ... の因数分解は教えません。少しのヒントを与えれば、高校生でも多くの n について $x^n - 1$ の因数分解ができます。これでデータを集めたことになります。次に、このデータに隠れている規則性を探させます。最終目標は各自然数 n に対して、円分多項式 $\Phi_d(x)$ が定まっていることを見つけることと、 $x^n - 1$ の因数分解に現れる円分多項式 $\Phi_d(x)$ は d が n の約数の時に限ることを見つけることです。名著「初等整数論講義」では、円分多項式の定義から始まりま

す。数学のたいていの本が、定義、定理、証明の連続です。私の本では、「疑問」、「問題」、「考えるヒント」、「観察」、「推測」など他の本では見られない言葉を配置して考える道筋がわかるように書いてみました。本を読み進めるうちに、自然に計算を始めている、それをねらっています。やらされてする計算は疲れるものですが、規則を見つけながら、自分で進んでやる計算は楽しいものだと気づく経験がこの本を読むことで得られます。最初に思いついた本の題は「数学の発見を自分で実験して再体験しよう」でした。数学の知識を増やすことよりも、数学の定理を見つけるとき、数学者の考え方のひとつの例を実際に体験して、それを身に着けようという気持ちが読者に生まれれば、著者の喜びになります。



企業を経て再び九大へ

数理学研究院助教 松井 秀俊

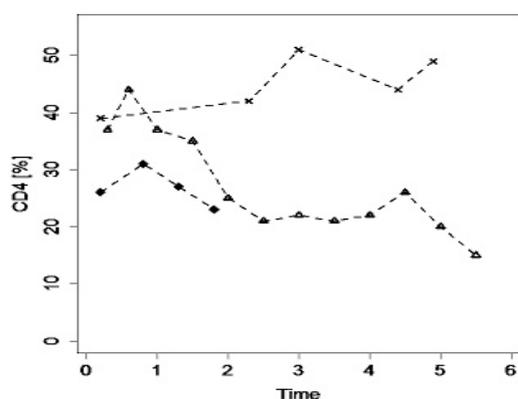
私は2009年3月に九州大学大学院数理学府の博士課程を修了した後、東京の企業に就職し、2012年4月に再び九大に、今度は教員として戻ってきました。学生時代に比べて、キャンパスが箱崎から伊都へ変わり、当時の指導教員が他大学へ移られている等、環境はガラリと変わっていますが、その分新鮮な気持ちで大学生活を送っています。

博士課程修了後にそのまま大学の世界に残らず民間企業へ進んだ最大の理由は「社会人がどういふものか経験したい」というシンプルなものでした。私の専門は統計学なのですが、それが産業界においてどのような形で需要があるのか、それから何を生み出せるのか、自分がその世界の歯車の一部となることで身をもって知ってみたかったのです。

私の配属先は純粋な研究機関ではなく、数学と光学を組み合わせたアルゴリズムを基にソフトウェアを開発するという仕事に携わりました。そこで、数学に加えて物理学の知識を得たのはもちろんですが、客先からの要求を分析する、人と一緒に一つの業務に取り組む等、大学ではなかなか積めない社会人ならではの経験を得ることができました。

そして就職してから3年後、とある機会に恵まれて九大数理の助教に就任いたしました。3年間という期間が短かったか否かは、現時点では私には分かりません。しかし、この期間に学び、経験したことは非常に内容の濃い、価値のあるものだったと確信しています。

最後になりましたが、私の専門分野について少しご紹介します。私は統計学を専門としており、大規模データに対する統計的モデリング手法の開発について研究しています。ここでいう大規模データというのは、ただ単にサンプルサイズが大きいというのではなく、データの構成が複雑であるものを指しています。



上の図は、その一例を示したものです。これは、ある患者3人の血液に含まれる免疫細胞の時間変化を表しているのですが、患者によって観測時点や時点数がバラバラであることが分かりま

す。このようなデータに対して古典的な回帰分析や主成分分析をそのまま適用しようとしてもうまくいきません。私は、このような形式のデータからより効率的に情報を集約するためのモデルの構築を目指しています。

近年の計算機の飛躍的な進歩により、このような複雑な形式をしたデータが様々な分野で取得されるようになってきました。私の開発したモデリング手法が、少しでも多くの分野で活かされるような研究をしていきたいと考えています。

(2004年修士入学)

劍豪榊淵虚冲軒と和算家高久守静

マス・フォア・インダストリ研究所 高瀬 正仁

数理の同窓会誌にエッセイを書くことになり、まずはじめに念頭に浮かんだのは桑木文庫の現状を伝えることでした。桑木文庫というのは、大正時代から昭和初期にかけて九大工学部の応用理学教室に在籍した桑木彥雄先生が、講座研究費の大半を使って収集した和洋双方の数学と自然科学の古典籍の集積のことで、箱崎の中央図書館の奥の院の特別書庫に保管されています。5000冊に及ぶ膨大なコレクションで、全国の科学史研究者の評価も高いのですが、歳月の流れとともに劣化も目立ちます。

この状況を受けてデジタル化の試みが始まり、(図書館ではなく)数理学研究院が予算を提供して平成23年度までに3年間続きました。計1000万円ほどを費やして相当の分量の写真撮影が実現し、図書館が運営する貴重図書画像データベースに掲示する作業も始まりました。全国の研究者に裨益するところは大きいと信じていますが、所蔵図書の分量があまりにも膨大なため、なお氷山の一角に留まっています。デジタル化の試みが継続して行われるよう、強く念願していますので、この際、桑木文庫とそのデジタル化の現状について詳しく報告したいと思ったのでした。

ところが先日、東京理科大で行われた数学会のおりに東京見物を試みて上野公園の不忍池を散策したところ、弁天島境内の裏手で興味深い

石碑を発見し、しげしげと眺めているうちに深い感慨に襲われました。それは上州(群馬県の古称)利根郡月夜野町出身の幕末の剣豪榊淵虚冲軒(くしぶちきょちゅうけん)の顕彰碑でした。未知の人物ですが、名前がおもしろいので心を惹かれました。調べてみると本名を榊淵彌兵衛宣根(くしぶち・やひょうえ・のぶもと)といい、寛延2年(1749年)に生まれ、文政3年(1820年)に亡くなっています。神道一心流兵法の開祖で、江戸に出て小川町に道場を開き、一橋徳川家の剣道指南役にもなっています。石碑を建てたのは門人の清水赤城という人です。

現在、郷里の群馬県に神道一心流保存会があり、120の型のうち48個が復元され、「刺突の剣」「斬撃の剣」など、の21個の型が伝えられているということです。

おおむねこんなことが判明したのですが、思えば日本には数々の剣豪が出現しました。系譜をたどると、新陰流の上泉伊勢守、二天一流の宮本武蔵、柳生一族、示現流の東郷重位等々、室町戦国あたりから江戸期を通じて枚挙にいとまがなく、幕末になって最後の盛り上がりを見せた後、明治維新の成立を受けて唐突に途絶えました。不忍池のほとりでたまたま見かけた榊淵虚冲軒の顕彰碑はこの長大な系譜の小さな断片だったのですが、この状況は和算の流れに酷似しています。

江戸期を通じて大きく展開した和算の系譜は明治維新後に途絶え、各地の和算家たちは悲惨な運命に陥りました。学制が公布されたのは明治5年8月。その際、小学校の数学教育を和洋のどちらにするかで議論が分かれました。文部省も当初は和算にする考えが有力で、高久守静(たかく・もりしず)という東京の四谷在住の和算家に教科書の作成を依頼しました。高久はこれに応じ、苦心惨憺の末に和算に基礎を置いた全10巻の教科書(問題5巻、答式5巻)が完成したのが学制発布の直前の明治5年7月。ところが翌8月になって蓋をあけると、採用されたのは洋算でした。文部省内でどんでん返しがあったのです。高久は小学校に勤務していたのですが、事の意外な成り行きに衝撃を受け、まもなく教職を離れました。文政4年(1821年)に生まれ、明治16年(1883

年)に亡くなりましたが、最晩年の様子は不明です。

剣豪も和算家も今日では失われ、歴史的回想の中に息づいているだけにすぎません。桑木文庫に保管されている大量の和算書はさながら和算の墓碑銘のようですが、和と洋の数学の比較研究は緒に就いたばかりですし、同窓生のみなさまの中に志のある人が出現するよう、心から願っています。

☆マス・フォア・インダストリ研究所開所式

2011年4月5日(火)、ハイアット・リージェンシー・福岡2Fリージェンシーボールルームにて、マス・フォア・インダストリ(MI)研究所の開所式、記念講演会が開催されました。ただし、記念祝賀会は式典の一月足らず前、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震による東日本大震災の発生を受け中止になりました。

式典挨拶

・九州大学総長、有川節夫

式典祝辞

- ・文部科学省基礎研究振興課長、内丸幸喜
- ・文部科学省科学技術政策研究所所長、桑原輝隆
- ・シンガポール国立大学 Deputy President & Provost, Eng Chye Tan
- ・日本数学会理事長、坪井俊
- ・日本応用数理学会会長、薩摩順吉
- ・統計数理研究所所長、北川源四郎
- ・京都大学数理解析研究所所長、森重文
- ・(株)富士通研究所フェロー、電子情報通信学会会長、津田俊隆
- ・David Mumford 博士(ビデオメッセージ)

記念講演会プログラム

- ・マス・フォア・インダストリ研究所所長、若山正人
- ・京都大学数理解析研究所 教授、森重文
「数学連携への期待」
- ・一橋大学経済研究所 教授、総合科学技術会議議員、青木玲子
「災害復興と数学連携」
- ・日本経済新聞社論説委員、滝順一
「数理思考が日本を救う」
- ・(株)日立製作所横浜研究所 主管研究長、寶木和夫

「企業から数学界への期待—暗号の開発現場から—」

- 新日本製鐵(株)フェロー、先端技術研究所長、
橋本操

「素材産業と数学 新たなステージへ向けて」

- 東京大学先端科学技術研究センター教授、
西成活裕

「数理学と実社会の接点—様々な応用事例の紹介—」

☆九州大学百周年記念関連行事

2011年11月15日(火)～12月18日(日)、九州国立博物館4階文化交流展示室関連第11室・1階ミュージアムホール・エントランスにて『九州大学百年の宝物』、『写真で見る「九大百年」展』が開催されました。

2012年5月12日(土)、九州大学創立百周年を祝す記念式典・記念講演会・記念祝賀会が箱崎キャンパス五十周年記念講堂とホテルオークラ福岡にて、また『箱崎キャンパス公開』/『写真で見る「九大百年」展』が箱崎キャンパスにて開催されました。

2012年5月13日(日)、九大100年まつりと初代総長胸像披露式が伊都キャンパスにて開催されました。

2012年5月26日(土)、アクロス福岡にて九州大学創立百周年記念コンサートが開催されました。

○大学院数理学研究院教員の異動

(2010. 4. 1～2012. 3. 31)

2010年度

転入等 教授・高木剛 (はこだて未来大学から)
准教授・高田敏恵 (新潟大学から)
教授・ANDREAS LANGER (4. 16-7. 31、連合王国 エクセター大学から)
教授・勝田篤 (岡山大学から)
教授・HIETARINTA JARMO NIILLO OLAVI (10. 16-12. 15、フィンランド トゥルク大学から)
教授・JOSHI NALINI (12. 1-12. 20、オーストラリア シドニー大学から)
教授・VAN DIJK GERRIT (4. 16-7. 31、オランダ レーデン大学から)
准教授・増田弘毅 (昇任)
助教・Virdol Cristian (採用)
助教・Morozov Kirill (採用)
准教授・手老篤史 (北海道大学から)
准教授・平岡裕章 (広島大学から)

転出等 准教授・中屋敷厚 (津田塾大学へ)
助教・津田照久 (一橋大学へ)

助教・川上裕 (山口大学へ)

助教・佐野友二 (熊本大学へ)

2011年度

転入等 准教授・樋上和弘 (鳴門教育大学から)
助教・村川秀樹 (富山大学から)
助教・本多正平 (京都大学から)
准教授・高木俊輔 (九州大学SSPから)
准教授・吉田寛 (九州大学SSPから)
准教授・神山直之 (中央大学から)
教授・岡田勘三 (シンガポール Data Storage Institute から)

異動 (M I 研究所発足時に数理からM I 研究所へ)
教授・若山正人、高木剛、西井龍映、
栄伸一郎、梶原健司、手塚集、
福本康秀、落合啓之、佐伯修、
小磯深幸、白井朋之、
特任教授・穴井宏和、
准教授・田上大助、増田弘毅、
木村正人、長藤かおり、二宮嘉行、
丸山修、溝口佳寛、高瀬正仁、
手老篤史、平岡裕章、
助教・千葉逸人、Kirill MOROZOV、
Cristian VIRDOL

転出等 准教授・高木俊輔 (東京大学へ)
助教・三枝洋一 (京都大学へ)
准教授・長友康行 (明治大学へ)
准教授・長藤かおり (ドイツ カールスルーエ大学へ)
教授・小池正夫 (定年退職)
教授・佐藤榮一 (定年退職)

2012年度

転入等 准教授・脇隼人 (電気通信大学から)
助教・松井秀俊 (ニコンシステムから)
助教・山名俊介 (大阪市立大学から)

○同窓会会計報告／活動報告

(2009. 5. 1～2010. 4. 30)

◎ 収入		◎ 支出	
事項	金額(円)	事項	金額(円)
前年度繰越金	1,252,556	全学同窓会費	10,000
新入会費	300,000	会報作成費	157,500
寄附	379,000	会報送付郵便料	126,000
預金利息	307	名簿データ修正費	23,520
		住所調査はがき返信郵送料	11,875
		通信費、雑費	1,260

	幹事会	14,800
	翌年度繰越	1,586,908
合計	1,931,863	合計 1,931,863

(2010. 5. 1~2011. 4. 30)

◎ 収 入		◎ 支 出	
事項	金額(円)	事項	金額(円)
前年度繰越金	1,586,908	全学同窓会費	10,105
新入会費	290,000	会報作成費	203,364
寄附	430,734	会報発送郵便料	164,574
預金利息	256	名簿データ修正費	10,000
		住所調査はがき返信郵送料	10,070
		通信費、雑費	3,165
		幹事会	6,300
		翌年度繰越	1,900,320
合計	2,307,898	合計	2,307,898

○活動報告

2010年10月15日 第21回常務幹事会
 2010年11月 5日 第14回幹事会
 2011年 7月25日 第22回常務幹事会
 2011年 8月 5日 第15回幹事会
 2011年12月 同窓会名簿No. 6発行
 2012年 7月 会報No. 7発行

○同窓会役員

(2010年8月現在)

名誉会長：金子昌信
 会長：風間英明
 庶務幹事：川崎英文、大津幸男
 会計幹事：高田敏恵
 編集幹事：岩瀬則夫
 学内幹事：前園宜彦、高瀬正仁、渡部善隆、
 角俊雄、森雅生、正代隆義、
 村川秀樹
 大学院生：三柴善範、高田芽味
 学外幹事：安楽和夫、岩元隆、大黒隆、
 四宮光文、竹若喜恵、藤井亨、
 橋本弘治、関剛
 会計監査：溝口佳寛、植田好道

○寄附していただいた方(順不同・敬称略)

(2010. 4. 1~2011. 3. 31)

山崎貴史、辻久美子、富崎松代、吉田守、風間英明、館野有美、中尾慎宏、中原徹、松永弘道、吉田正章、高田敏恵、清田武秀、篠脇幸絵、斎藤登、境優一、末吉豊、中尾充宏、松田康雄、張田珠潮、木村誠二、吉永勇太郎、山口富男、藤原悠行、国場敦夫、佐藤坦、井元清哉、鷺尾泰俊、野田信一郎、大貝聖子、増田菜美、北村三郎、パルハティアブデュワイル、大黒隆、井上順子、能隅進一、河原紀彦、長郷文和、前園宣彦、加藤久子、蔵野正美、井上浩一、岩永純弥、中坊滋一、丸山祐造、藤野大地、隠居良行、釜江慶子、内藤淳、川崎一樹、岩本誠一、大島洋一、田淵大樹、中尾寿康、東浩二郎、大浦学、木村憲二、木村友紀、坂西文俊、田中靖子、林平馬、今井淳、木本一史、岡本育久、四宮光文、石川眞昭、金子昌信、佐伯修、古賀孝行、田中克徳、関剛、梶原壤二、有川節夫、福田拓生、萬代弥寿夫、藤井一幸、棚次奎介、無記名(2009卒)、押川尚志、川原裕人、足立憲治、菅原弘太郎、奥村伸也、坂本恭一、松尾典和、岩永純弥、加藤陽介、大野賢司、田上宏基、吉永勇太郎、山下晃史、飯島翔太、久保裕介、沖田匡聡、武田直幸、宮崎祐樹、澤邊彩佳、安藤和博、池田有希、呉屋秀樹、井山政志、林卓也、溝田裕介、坂元孝之、古賀慶也、早坂健一郎、佐川明那、森下真優

(2011. 4. 1~2012. 4. 30)

Kissani Ridma Perera、石原優介、元田康夫、内藤淳、佐藤優子、渡辺宏、石川晋、中坊滋一、前園宣彦、吉田寛、土谷正明、金城千明、佐藤坦、横山美佐子、岡本育久、清田武秀、鳥飼千鶴子、中里博、江口正晃、安生健一、若山正人、高田敏恵、繁木伸孝、久野洋、阿部圭、丸山祐造、林健児、阿部幸隆、長久武、藤沢秀雄、井上順子、岡幸正、藤原悠行、橋爪雄一、岩本誠一、宮本朋子、加納省吾、四反田義美、田中昭三、柳川堯、桶屋勝幸、谷山泰子、中村俊哉、国場敦夫、田中靖子、渡邊清、金子昌信、陶山芳彦、中尾寿康、深見哲造、下瀬直人、四宮光文、今井淳、佐伯修、土屋卓也、鷺尾泰俊、須田真木、松田康雄、稲吉一馬、田口龍治、松井貴之、栗山憲、風間英明、今井昭、有川節夫、大浦学、根来彬、大津洋、古賀孝行、蔵野正美、弥永学、吉永祐治、平下幸男、木下健志、宮崎松代、安達謙三、吉田守、黒河知子、梶原壤二、末吉豊、中島誠、松永弘道、和久井道久、井山秀

一、白井将博、中尾充宏、井上浩一、加藤裕基、佐藤正弥、鄒蓉、生田卓也、渡辺宏、稲富祥智、末光浩也、松永元気、前田光成、内田弘和、田中康博、中屋光泰、大澤進、浅海雄一、山畑幸穂、吉原和也、坂田英幸、小田文也、川端翔太、高原裕介、村上晋也、宇榮原夏希、甲斐義孝、日高友幸、菊野赳史、橋本剛志、富永光司、佐々野詠淑、津田和幸、上田謙吾、坂田光、佐藤真理子、井元佑介、花元誠一、安岡孝司

○卒業生の進路

2011年3月

◆修士課程

* 進学(博士後期課程) 12名

九大数理(12名)

* 教職 10名

県立(愛知, 熊本, 福岡, 福岡中学)

私立(福岡, 山口, 佐賀)

* 企業 30名

あいおいニッセイ同和損害保険, アサヒビル, iCAD, エコー電子工業, NTTコムウェア, エイチ・アイ・デー, かんぽ生命保険, 損害保険ジャパン, NTTデータ, 日本政策投資銀行, 日立製作所, 日立情報制御ソリューションズ, 日立ソリューションズ, ニトリホールディングス, コベルコシステム, JRAシステムサービス, 全国共済水産業協同組合連合会, 新日鐵ソリューションズ, セントラルソフト, 東芝テック, 日興コーディアル証券, ニッセイ情報テクノロジー, 農林中央金庫, 富士通九州システムズ, 富士通九州ネットワークテクノロジー, 三井住友銀行, 三菱UFJ信託銀行, ゆうちょ銀行

◆博士後期課程

* 研究職(博士後期課程) 4名

大阪大学大学院基礎工学研究科助教, 文部科学省, 九州大学博士研究員

* 企業 3名

日本電信電話, 富山化学工業, 日立製作所

2012年3月

◆修士課程

* 進学(博士後期過程) 13名

九大数理(13名)

* 教職 10名

県立(愛知, 愛媛, 大分, 神奈川, 千葉, 佐賀中学)

私立(福岡, 佐賀)

* 公務員 1名

福岡県庁

* 企業 23名

英進館, NTTアドバンステクノロジー, IDCフロンティア, NSソリューションズ西日本, NTTデータ, 地域科学研究所, 日立製作所, プリマジェスト, 近畿産業信用組合, JA共済連鹿児島県本部, TIS, トランスコスモス, 中原理財, 西日本新聞社, ニッセイ情報テクノロジー, 富士通, フューチャーアーク, 代々木ゼミナール

◆博士後期課程

* 研究職(博士後期過程) 10名

ケラニヤ大学講師, 学振特別研究員, 中央大学CREST研究員, 九州大学博士研究員

* 企業 2名

NTT研究所, トヨタテクニカルイノベーション

○数理同窓会ホームページについて

<http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>

に数理同窓会HPを公開中です。過去の同窓会報のPDFファイルで置いています。会報中の写真や図はカラーでご覧頂けます。会員専用のページには、パスワードによるロックをかけています。パスワードはホームページ上でも確認できますが、ユーザ名: alumni パスワード: 20050801です。予告なく変更する場合もあるかと思いますが、その際にご容赦願います。数理同窓会ホームページの内容充実に関してご意見等ありましたら、編集幹事までご連絡ください。

● 編集後記

□博士課程に進学し、院生会長と共に、TRAという大変有難いポジションにも就かせて頂きました。現在はMMAの修士の学生さん達の勉強・研究を手伝っています。土日も休まず、朝から晩まで学校に籠って数学をやっているようです。質問にもよく来てくれます。彼らの心身の健康が心配になる反面、その真摯な姿勢に感動を覚えています。私も彼らのよい手本になれるように、また何より良い結果を生み出せるように、研究に邁進する所存です。

(2012年度院生会長 博士1年 高田芽味)

□前年度院生会長として編集に携わりました。このような作業はあまりやったことがなかったので、その意外な大変さに驚くとともに、数理同窓会が多くの人々の協力のもとに成り立っているのだと実感しました。

(2011年度院生会長 博士2年 三柴善範)

□初めてのことばかりで戸惑いながらですが、数理同窓会報No.7をなんとか皆様の御手元に届けることができ、ほっとしています。お忙しい中記事をお寄せくださった風間、冬野、小池、川崎、高瀬、松井の先生方、度々相談に乗っていただいた同窓会役員の方々や数理事務の田中さんやコロニー印刷の久田さんはじめご協力くださった多くの皆様と編集作業を手伝ってくれた院生の高田君と三柴君に心より感謝いたします。これからも多くの同窓会員の皆様から近況や様々な方面での活躍の様子などのお知らせを頂き、紙面の充実に役立てたいと考えておりますので、下記までどしどしお寄せ下さい。最後に寄付していただいた方のリストを会計年度に合わせて5月1日から翌年の4月30日までに改定することにしました。今後も一層のお引き立てとご協力をお願いいたします。

(編集幹事：岩瀬則夫)

E-mail: alumni@math.kyushu-u.ac.jp

数理同窓会報 NO. 7

2012年 8月 1日



発行：九州大学大学院数理学府同窓会
〒819-0395 福岡市西区元岡744
九州大学大学院数理学研究院内

↑ ↑ alumni@math.kyushu-u.ac.jp (Email)

印刷・発送：コロニー印刷